アフリカ子どもの本プロジェクト

SHANDA Dream Library

2008.8.15~26

たかぎちほ

8月15・16日

長い空の旅。羽田空港から、関西空港、デュバイ、ナイロビを経由して、キスム空港に着きました。
『アフリカ子どもの本プロジェクト』のメンバー、さくまさんと沢田さんとシャンダの村に図書館を作りに来たのです。
キスム空港に、NGO『少年ケニヤの友』の岸田さんと風間さんが迎えに来てくれました。そして、キスムにある事務所へ行き、『少年ケニヤの友』の活動内容を教えてもらいました。
暗くなってからの移動は危険なので、キスムのホテルに泊まりました。

8月17日

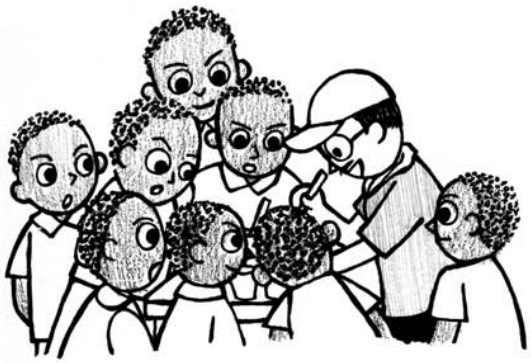
キスムから、まず、エンザロ村へ向かいました。2004年にオープンした『エンザロ・ドリーム・ライブラリー』を訪問するためです。
雨が降るとぬかるんで行くことが出来なくなるという道を、がたがたと車に揺られて数時間、図書館に着きました。
オレンジのレンガと青い扉。レンガのところどころが緑にぬられていておしゃれな建物。
図書館から歌声が聞こえてきます。

子どもたちが歓迎の歌を歌ってくれていました。その歌声を聞きつけて村のおばさんが踊ります。
歓迎の会の後、リハンダさんの家に伺い、かまどを見せてもらいました。絵本『エンザロ村のかまど』のかまどです。

エンザロ村をあとにして、車を走らせ、シャンダの村の学校に着きました。
学校の校長先生が使っていた建物を図書館にするのです。道からすぐ見える建物。オレンジがかったピンクで塗られた壁とトタン屋根。
中は二つの部屋に別れていて，本箱とベンチが作って置いてありました。
ペンキの用意もされていました。
現地NGOの『KAFCOS』（植林などの活動をしています。）が、ペンキを塗るなどのお手伝いをしてくれます。

さっそく、作業を開始。本箱とベンチを外に出し、ペンキで色塗りです。
今は夏休みなのですが、補習で子どもたちが学校に来ていたので，子どもたちも一緒に塗ります。
子どもたちには慣れないペンキ塗り。ハケにペンキをつけすぎて、ぼたぼたこぼしています。とても楽しそうです。
赤、青、緑、黄色で塗られた、カラフルな本棚になりました。

壁にアイボリー色のラインを描くことになりました。でこぼこした壁にまっすぐと描くのはなかなか難しいです。
空から、ゴロゴロっと、音が鳴ります。この地域はだいたい毎日、夕方前に雨が降ります。雨に濡れないよう本棚やベンチを建物に運んで今日の作業は終わりました。
今日からは、車で４０分ほど走ったところにあるカガメガの森の中のホテルに泊まります。



8月18日

シャンダに着くと、屋根が緑色になっていました。現地のスタッフが屋根が日差しで熱くなる前に塗ってくれたのです。
まず、昨日の本棚とベンチの仕上げの２度塗りをします。
そして、沢田さんは子どもたちとロックアートのワークショップをしました。
みんな真剣に聞いています。

やり方を聞いた子どもたちは、思い思いにペンキで石に色ををつけていきます。次々とカラフルな石が出来上がっていきます。ものたりず、学校の壁や戸に絵を描いてしまう子どももいました。
この石をラインを塗った下の壁に埋め込むのです。そのためにレンガを石が入るくらいの大きさに、ノミで削ります。高学年の子どもが一緒に手伝ってくれました。
図書館の裏の壁に、草が生えてきてもなじむようにと花畑を描こうと思い、花を描き始めました。すると、さっき、ロックアートをして、描く楽しさを知った子どもたちが、『描いてもいい？』という顔をして近寄ってきました。

私も子どもたちと描けたらいいなっと、思っていたので、『お花を描いてね。』と筆を渡しました。１０人くらいの子どもたちが集まりました。カラフルな花を描いていきました。チョウやセミを描く子どももいます。すぐに、壁はにぎやかな花畑になりました。
そこで、空が曇り、雨が降ってきました。
急いで本棚やペンキを建物の中へ運びました。

雨が降ってきても作業はたくさんあります。沢田さんは図書館の中の壁に絵を描きます。
部屋は机とペンキ、荷物がたくさんあり、足場を作るのも大変です。
緑色で葉っぱを描き始めました。壁一面に広がる、カガメガの森を描くのです。木々を描き、ツタをからませ、鳥や猿を描きました。
岸田さんもペンキで色づくりをしたり、ツタや木を描く手伝いをしながら、作業風景をビデオで記録します。

私は扉の色塗りを始めました。図書館には扉が三つあります。現地のスタッフと手分けして、水色に塗っていきます。
塗り終わり、次は窓枠も塗ります。窓枠の鉄の柵は、後から作った薄い紫に塗りました。その色がきれいだったので、扉もその色にしようということになりました。ペンキが乾く、明日、仕上げ塗りでその色に塗り直すことにしました。

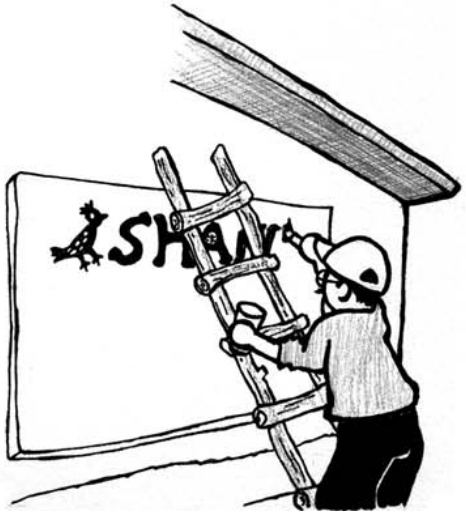
さくまさんたちは、別の建物にある部屋に運んだ絵本をチェックする作業をしていました。日本から送った絵本が、リストとあっているかをチェックし、種類ごとにカラーテープを色分けして貼ります。
リストとの違いがあったので、骨を折る作業でした。間違いのあるリストはホテルに帰ってからパソコンで作り直しをします。この作業は時間がかかり、今日中には終わりませんでした。

8月19日

穴ぼこやぬかるみで道が悪いため、２台の車のうちの１台がパンクしてしまいした。岸田さん、さくまさん、沢田さんと私は、もう一台の車で先に向かうことにしました。
道沿いの図書館のそばに大きな岩があり､そこに『少年ケニヤの友』のロゴマークを描きことになりました。バオバブの木の下で，子どもたちが手をつないでいる絵です。裏と表と二つのバオバブを描き、ぐるり一周子どもたちが手をつないでいる絵にアレンジしました。

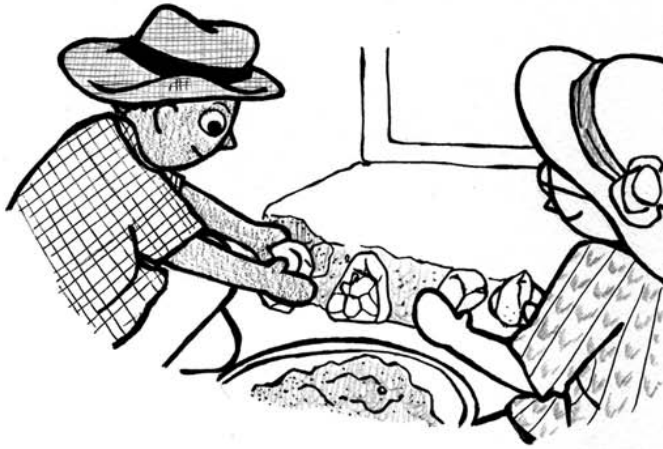
道に面した壁に看板を描くため、昨日、アイボリーに塗ってくれてました。
そこへ、沢田さんが青色のペンキで、『SHANDA Dream Library』と、書きました。
鳥と本を持った猿を描き、ふちにも模様が入り、かわいい看板が出来上がりました。
大きな看板なのでとても目立ちます。
道行く地元の人たちも『ライブラリー？』とぽろっと声を落としていきます。

KAFCOS のメンバーが、子どもたちが描いた石を壁に埋め込む作業をしました。
セメントを使って石を固定します。セメントで石の出る面が小さくなり、少し目立たなくなってしまったので、クレヨンで色を塗ることになりました。
埋めたセメントが乾いたら、石の絵が目立つように、アイボリーの色で石の周りを塗りました。
作業を見ていた子どもたちも、何か作業をしたそうにしていたので、敷地と道の間にある木の柵に色を塗ってもらいました。
日の丸の色に塗られた、おにぎりの形をした石を入り口の上のくぼみに置きました。



子どもたちの描いた石で大きすぎて壁に埋めれなかったものを、入り口のステップの飾りにすることになりました。
岸田さんがバランスを考えて石を並べ，セメントで整えます。
セメントでステップを固めたため、図書館の出入りをベンチをひっくり返して橋にしました。
そうこうしていたら、雨が降ってきました。

看板のある反対側の壁の上の方が、土がぼろぼろとしていて汚いので、なんとかしようと、その部分を木の葉に見立てて、木を描くことになりました。さっそく、ぼろっとした部分を緑に塗っていきました。
でも、木を三角に組み合わせた脚立で塗り始めたものの、私には背が足りず届きません。ふと、下を見ると壁のペンキ塗りをしている背の高い現地のスタッフが目に入り、頼んで変わって描いてもらいました。
そのあと、沢田さんが木の幹を描き、両側から木が茂り，素敵な壁に変身しました。



私は雨具を着て、昨日子どもたちと描いた絵を仕上げにいきました。
本棚のペンキが乾いたので、図書室にレイアウトして並べました。

ホテルに帰ると、沢田さんは図書館のルールを英語でイラストつきで描き、さくまさんはリスト作りを、消灯が過ぎてもライトを頭に、がんばってました。

8月20日

また、車がパンクしてしまいました。
１台の車は今日から合流する伏原さん親子を迎えにキスムに行っています。
そのため、車の修理が終わるまで、ホテルで待機しました。

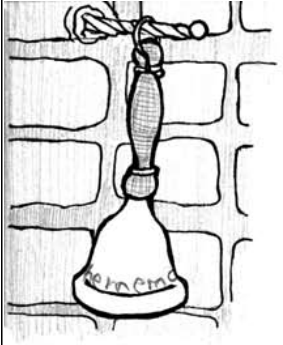
お昼過ぎに図書館に着き、まずは、本を並べる作業を始めました。
そして、数がリストと合うか数えます。

花壇に植物を植えていきます。花壇のしきりには子どもたちが色を塗った石を使いました。

図書館の三枚の扉に絵を描きます。
沢田さんと伏原さんと私で一枚づつ担当。テーマは『鳥』です。
アフリカといえば、湖に一面ピンクのフラミンゴをイメージしていたので、私はフラミンゴを描きました。
伏原さんは、入り口の扉にホーンビルなどのアフリカの鳥を６羽描いています。

そして、伏原さんは表側が描き終わると、続いて入り口の扉の裏側に、子どもたちが一番なじんでいる鳥のにわとりとひよこを描きました。

さくまさんは校長先生とこれからの図書館の運営や図書館員などについて、話し合いをしています。



絵本を集める協力をしてくださった故・長沢さんのメモリアルとして鐘を購入し、壁にボルトを埋め込み、針金で取り付けました。

部屋の空いている壁にアルファベットなどのシートを貼りました。

沢田さんは図書館全体のことを指示しながら、あっちやこっちやと、動き回っています。
扉にトラコという青い鳥を描き、昨日、木を描いた外の壁に、レンガの跡をうまく生かして、キリンを２頭描きました。

フラミンゴを描き終えた私は、その裏側に緑色のカワセミのような鳥を２羽描きました。

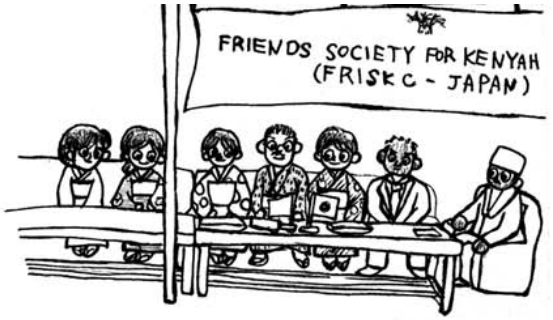
明日はオープニングです。パンクで作業時間が遅くなってしまったので、お昼を食べに行くのをやめて、作業をもくもくと続けます。

花畑を描いた壁のアイボリーラインのところに絵を描いた３人のサインを書きました。

壁にアフリカ子どもの本プロジェクトで作った絵はがきを５枚並べて貼りました。
子どもたちが集めた草をほうきの代わりにして、床のほこりや砂を払ってくれました。
ホテルに帰って、明日のオープニングセレモニーのための催しものの練習をしました。そのあと、伏原さんはスワヒリ語で図書館のルールを描きました。
これで、オープニングを迎えられます。

8月21日

日本から持って来た浴衣を着て、図書館へ向かいました。
テープカット用のリボンを作ったり、幕を飾ったり、準備をします。
予定より、遅れてセレモニーが始まりました。



子どもたちが歓迎の歌を歌いながらダンスをしてくれます。はげしい腰をふるダンス。腰にひらひらと揺れるカラフルな布をまいて、おしゃれです。途中から、私たちも一緒に踊りました。
その次に、詩の朗読のプレゼントもしてくれました。

挨拶のあとは、図書館のテープカットです。校長先生とさくまさんが入り口のリボンをカットします。
メモリアルの鐘を岸田さんが軽快に鳴らします。
そして、地元のみなさんの図書館見学です。興味津々につぎつぎとはいり、図書館は満杯です。

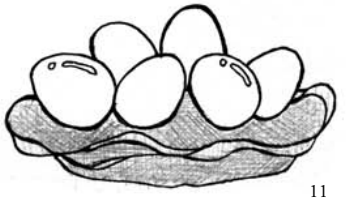
次は記念樹を植えます。
名前の札をつけてくれて、ひとりづつ図書館の周りに植えていきました。
樹皮や根や葉っぱを煎じると薬になる役にたつ木ばかりです。
植えたら、大きく育ちますようにっと、水をかけます。

校長先生のスピーチや私たちの自己紹介のあと、日本の文化紹介として、さくまさんと私がたて笛で伴奏し、みんなで『ふるさと』を歌いました。そして、伏原さんがスワヒリ語の歌『jambo』に振り付けをつけて、こどもたちも一緒になって歌って踊りました。

セレモニーの途中でしたが、雨が降ってきて、みんな建物に入りました。
先生たちが作ってくれた料理を囲み、食事会が始まりました。
野菜のスープや鶏肉料理にウガリなど。本当においしかったです。

食事会のあと、沢田さんは子どもたちとことばのリズムあそびをしました。『シャンダ』『ドリーム』『ライブラリー』とグループ分けして、それぞれ歌うのです。みんなの声が重なります。歌いながら図書館をぐるりとまわりました。

校長先生に呼ばれて、食事会をした部屋へ行くと、贈り物を子どもが渡してくれました。
贈り物は卵を６つです。卵は現地ではとても貴重なものと聞きました。
（次の日、さっそく、ゆでたまごにして、おいしくいただきました。）
ホテルに戻っての祝杯をあげました。
４日間、本当によく働きました。そして、素敵な図書館が出来上がりました。
充実感いっぱいです。



8月22日

昨日、ビデオのバッテリーが切れて記録出来なかったため撮影をしに、図書館へ来ました。
子どもたちのダンスを一緒に踊っりました。上手だから、もっと踊れとはやしたてられ、最後まで一緒に踊りました。

激しいダンスのあと、息切れと動悸を感じながら、子どもたちと絵を描くワークショップのお手伝いをしました。伏原さんがスワヒリ語で子どもたちに説明します。
じっくり、しっかり描けるように、数人、前に出て来てもらい、描いてもらうことにしました。

子どもたちは、絵の具で絵を描くのは初めてです。紙コップに１色づつ絵の具を入れ、色を混ぜない方法で描くことにしました。
みんな夢中で家や鳥や車などを描きました。子どもたちは教室いっぱいいたため、２、３人で一枚の用紙に描きました。

しばらくお手伝いしたあと、図書館へ移動しました。窓のそばに本を置くと、窓からひょいっと盗まれてしまうといけないので、窓のそばに本を置かないようにブックエンドを石で作りました。
子どもが本を読んでいる絵を描きました。
作業をしていると、子どもたちがよってきて、私も描きたいっと、筆をとり石を塗っていきました。
みんな、絵を描くことが好きなんだなっと思いました。でも、今は美術の授業がないそうです。
復活するといいのにっと思いました。

8月23日

昨日のワークショップの次の段階、『色を混ぜて絵を描く』ことをしました。お皿の端に絵の具を何色か出し、中央で混ぜて絵を描きます。
人数が昨日より少なかったので一人一枚ゆっくりと描く子、さっさと大胆に筆を動かす子。絵を描いたら裏に名前を書いてもらいました。

学校の広場には大きな岩がごろごろあり、子どもたちのイス代わりにもなっています。
その岩にロックペイントをしました。伏原（娘）さんと私はゴリラを描き、岸田さんは鳥を描きました。本当はもっと描いて、動物いっぱいにしたかったです。

仲良くなった女の子がおやつに黒糖をくれました。今回の滞在で子どもたちの人なつっこさに、明るさに、本当に力をもらいました。

ついに、この地、この子どもたちとお別れの時がやってきました。
車の外で、手を振るみんな。
急いで窓を開け、手を伸ばし「パンッ」っと、タッチをしました。
車が進むと走って手をふって見送ってくれ、胸がじんっとしました。
７日間、毎日通った、学校の中にある『シャンダ・ドリーム・ライブラリー』。あの、みんなで植えた記念樹が図書館の高さまで大きく育つころに、また、来れたらいいなっと、思いました。

わたしたちが アフリカで さぎょうしました。

アフリカ子どもの本プロジェクト&少年ケニヤの友の会 +α